





|    |   |   |
|----|---|---|
| 25 | 神経節細胞腫 (頭蓋内及び脊管内に限る。)                       | 同上  |
| 26 | 腎明細胞肉腫 (腫瘍)                                 | 同上  |
| 27 | 膝芽腫   | 同上  |
| 28 | 髓上皮腫  | 同上  |
| 29 | 髓膜腫   | 同上  |
| 30 | 脊上皮腫  | 同上  |
| 31 | 脊索腫   | 同上  |
| 32 | セザリヤ (Sezary) 症候群                           | 同上  |
| 33 | 赤血病   | 同上  |
| 34 | 赤白血病  | 同上  |
| 35 | 先天性腎間葉芽腫 (先天性中胚葉性腎腫)                        | 同上  |
| 36 | 頭蓋咽頭腫                                       | 同上  |
| 37 | 脳室上衣腫                                       | 同上  |
| 38 | 肺芽腫   | 同上  |
| 39 | 白血病   | 同上  |
| 40 | 白血病性細網内皮症 (Hairy-Cell Leukemia)             | 同上  |
| 41 | バーキット (Burkitt) リンパ腫                        | 同上  |
| 42 | ハンド・シュラー・クリスチヤン (Hand-Schüller-Christian) 病 | 組織と部位が明確に診断されている場合、かつ複数の病変がみられた場合は、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。 |
| 43 | 非白血病性細網内皮症 (組織球形細胞網症)                       | 組織と部位が明確に診断されている場合、かつ複数の病変がみられた場合は、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。 |
| 44 | 非ホジキン (non-Hodgkin) リンパ腫                    | 同上  |
| 45 | ホジキン (Hodgkin) 病                            | 同上  |
| 46 | 未梢性神経外胚葉腫瘍                                  | 同上  |
| 47 | 未分化胚細胞腫 (卵巣精上皮腫)                            | 同上  |
| 48 | 脈絡叢乳頭腫                                      | 同上  |

|    |  |   |
|----|--|---|
| 49 | ユーイング (Ewing) 肉腫   | 同上  |
| 50 | ラズボイド腫瘍 (肉腫) (悪性ラズボイド腫瘍)   | 同上  |
| 51 | ランゲルハンス (細胞) 組織球症 (Histiocytosis X)  | 組織と部位が明確に診断されている場合、かつ複数の病変がみられた場合は、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。 |
| 52 | 緑色腫  | 組織と部位が明確に診断されている場合、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。                 |
| 53 | レットラー・ジーベ (Letterer-Siwe) 病  | 組織と部位が明確に診断されている場合、かつ複数の病変がみられた場合は、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。 |
| 54 | H鎖病 (α鎖病、γ鎖病、δ鎖病、μ鎖病)  | 組織と部位が明確に診断されている場合、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。                 |
| 55 | 1から54までに掲げるもののほか、悪性腫瘍、芽腫 (肉芽腫を除く。)又は芽細胞腫である旨を明示するすべての疾病名、肉腫である旨を明示するすべての疾病名、その他 (癌腫又は肉腫)を本誌とする疾病名。増殖したし、頭蓋内又は脊管内の新生物にあつては組織型を問わない。 | 組織と部位が明確に診断されている場合、治療終了後5年経過等が認められた場合は、再度対象とする。                 |

備考 この表に掲げる疾患については、この表に定める疾患の状態の程度であつて第五表備考に定める基準を満たすものを対象とする。

第二表 慢性腎疾患

| 区分       | 番号 | 疾患名                  | 疾患の状態の程度  |
|----------|----|----------------------|---|
| 腎炎・ネフローゼ | 1  | 慢性腎炎                 | 検査で、血尿以上 (6以上/視野) かつ蛋白尿以上 (30mg/dl以上) の状態が、6か月以上続く場合であつて、治療で、ネフローゼ、抗血小板薬、抗凝薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合 |
|          | 2  | 急速進行性糸球体腎炎の病変を示す慢性腎炎 | 治療で、ネフローゼ、免疫抑制薬、抗凝薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合  |

|    |                            |   |
|----|----------------------------|---|
| 3  | 柴斑病性腎炎                     | 検査で、血尿＋以上（6以上/視野）かつ蛋白尿＋以上（30mg/dl以上）の状態が、発症から6か月以上続く場合  |
| 4  | 巣状糸球体硬化症                   | 治療で、ステロイド薬、免疫抑制薬、抗凝固薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合  |
| 5  | ネフローゼ症候群                   | 次のいずれかに該当する場合<br>ア 先天性ネフローゼ症候群の場合<br>イ 半年間で3回以上再発した場合<br>ウ ステロイド抵抗性であり、4週間のステロイド治療を行った後も、尿中蛋白質100mg/dl又は、尿中蛋白質1g/日以上で、かつ、血清アルブミン3.0g/dl未満の状態である場合 |
| 6  | 微小変化型ネフローゼ症候群              | 半年間で3回以上再発した場合  |
| 7  | 慢性糸球体腎炎                    | 病理組織で診断が確定し、治療で、ステロイド薬、免疫抑制薬、抗凝固薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合  |
| 8  | 慢性増殖性糸球体腎炎                 | 治療で、ステロイド薬、免疫抑制薬、抗凝固薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合  |
| 9  | 慢性膜性糸球体腎炎                  | 同上  |
| 10 | 慢性膜性増殖性糸球体腎炎               | 同上  |
| 11 | IgA腎症                      | 同上  |
| 12 | アミロイド腎                     | 腎機能の低下が見られる場合   |
| 13 | 萎縮腎                        | 両側の腎に病変があり、腎機能の低下が見られる場合  |
| 14 | 家族性若年性ネフローゼ                | 治療で薬物療法を行っている場合   |
| 15 | ギテルマン (Gitelman) 症候群       | 同上  |
| 16 | 巨大尿管症                      | 両側性で腎機能低下の場合又は泌尿器科的手術が必要な場合   |
| 17 | グッドパスチャー (Goodpasture) 症候群 | 治療で、ステロイド薬、免疫抑制薬、抗凝固薬、降圧薬のうち一つ以上を用いる場合  |
| 18 | 腎血管性高血圧                    | 治療で薬物療法を行っている場合   |

|    |                        |   |
|----|------------------------|---|
| 19 | 腎静脈血栓症                 | 腎機能の低下が見られる場合                             |
| 20 | 腎動静脈瘻                  | 同上  |
| 21 | 腎動脈狭窄症                 | 同上  |
| 22 | 腎尿管管性アシドーシス            | 治療で薬物療法を行っている場合                           |
| 23 | 腎嚢胞                    | 両側の腎に病変があり、腎機能の低下が見られる場合                  |
| 24 | 腎の奇形、位置異常又は腫瘍による腎機能障害  | 同上  |
| 25 | 腎の無発生、低形成、無形成又は異形成     | 同上  |
| 26 | 腎又は腎周囲腫瘍               | 発症後6か月を経過した場合で、発病後6か月に病変があり、腎機能の低下が見られる場合 |
| 27 | 腎又は尿路結石                | 両側の腎に病変があり、腎機能の低下が見られる場合                  |
| 28 | 水腎症                    | 両側性で腎機能低下の場合又は泌尿器科的手術が必要な場合               |
| 29 | 多発性嚢胞腎                 | 治療で薬物療法を行っている場合                           |
| 30 | 尿路の奇形、位置異常又は腫瘍による腎機能障害 | 両側性で腎機能低下の場合又は泌尿器科的手術が必要な場合               |
| 31 | 尿路閉塞性腎機能障害             | 同上  |
| 32 | バーター (Barter) 症候群      | 治療で薬物療法を行っている場合                           |
| 33 | 慢性間質性腎炎                | 腎機能の低下が見られる場合                             |
| 34 | 慢性腎盂腎炎                 | 両側性で腎機能低下の場合                              |

備考

この表に掲げる疾患についてヒト成長ホルモン治療を行う場合においては、この表に定める疾患の状態の程度であって第五表備考に定める基準を満たすものを対象とする。

第三表 慢性呼吸器疾患

| 区分      | 番号 | 疾患名        | 疾患の程度                                      |
|---------|----|------------|--|
| 慢性呼吸器疾患 | 1  | アレルギー性気管支炎 | 3か月以上3回以上の大発作がある場合又は1年以内に意識障害を伴う大発作がある場合   |
|         | 2  | アレルギー性気管支炎 | 同上   |
|         | 3  | 気管狭窄       | 治療で、人工呼吸管理、酸素療法、気管切開、挿管、中心静脈栄養のうち一つ以上を行う場合 |
|         | 4  | 気管支拡張症     | 気管支炎や肺炎を繰り返す場合                             |

|    |                                      |   |
|----|--------------------------------------|---|
| 5  | 気管支喘息                                | 次のいずれかに該当する場合<br>ア 3か月に3回以上の大発作がある場合<br>イ 1年以内に意識障害を伴う大発作がある場合<br>ウ 治療で、人工呼吸管理又は挿管を行う場合 |
| 6  | 先天性中枢性低換気症候群                         | 治療で、人工呼吸管理、酸素療法、気管切開、挿管、中心静脈栄養のうち一つ以上を行う場合  |
| 7  | 先天性肺蛋白症                              | 疾患による症状がある場合  |
| 8  | 線毛機能不全症候群 (カータジェナー (Kartagener) 症候群) | 同上  |
| 9  | 嚔胞性線維症                               | 同上  |
| 10 | 本態性 (特発性) 肺へモジデロシス (血鉄症)             | 同上  |
| 11 | 慢性肺疾患                                | 治療で、人工呼吸管理、酸素療法、気管切開、挿管、中心静脈栄養のうち一つ以上を行う場合  |

第四表 慢性心疾患

| 区分      | 番号 | 疾患名  | 疾患の程度                       |
|---------|----|--|-----------------------------|
| 冠動脈の異常  | 1  | 冠動脈狭窄  | 第1基準又は第2基準を満たす場合            |
|         | 2  | 冠動脈異常起始症   | 同上                          |
|         | 3  | 冠動脈拡張症   | 同上                          |
|         | 4  | 冠動脈狭窄症   | 同上                          |
|         | 5  | 冠動脈瘤   | 同上                          |
|         | 6  | 左冠動脈肺動脈起始症 (ブランク・ホワイト・ランド 症候群)                   | 同上                          |
|         | 7  | 狭心症  | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合        |
| 刺激伝導系異常 | 8  | ウォルフ・パーキンソン・ホワイト症 (Wolf-Parkinson-White, WPW) 候群 | 第1基準を満たす場合                  |
|         | 9  | 期外収縮   | 心室性期外収縮であって多源性である場合         |
|         | 10 | 期ブロック  | 左側ブロックで治療中である場合又は第2基準を満たす場合 |

|    |                            |                              |
|----|----------------------------|------------------------------|
| 11 | 心房又は心室の細動                  | 心室細動である場合又は心房細動で第1基準を満たす場合   |
| 12 | 心房又は心室の粗動                  | 心室粗動である場合又は心房粗動で第1基準を満たす場合   |
| 13 | 洞不全症候群                     | 左側の疾患名に該当する場合                |
| 14 | 洞房ブロック                     | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合         |
| 15 | 非発作性頻拍 (心室、上室性)            | 第1基準を満たす場合                   |
| 16 | 房室解離                       | 同上                           |
| 17 | 房室ブロック                     | Mobitz II型又は完全房室ブロックの場合      |
| 18 | 発作性頻拍 (心室、上室性)             | 第1基準を満たす場合                   |
| 19 | ロマノ・ワルド (Romano-Ward) 症候群  | 左側の疾患名に該当する場合                |
| 20 | QT延長症候群                    | 同上                           |
| 21 | 心筋梗塞                       | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合         |
| 22 | 総動脈幹遺残症                    | 第1基準又は第2基準を満たす場合             |
| 23 | 大動脈肺動脈中隔欠損症                | 同上                           |
| 24 | 心筋炎後心肥大                    | 第1基準を満たす場合                   |
| 25 | 心臓腫瘍 (粘液腫、横紋筋腫、脂肪腫、線維腫)    | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合        |
| 26 | 慢性緊縮性心臓炎                   | 第1基準を満たす場合                   |
| 27 | 慢性心筋炎                      | 同上                           |
| 28 | 慢性心内膜炎                     | 同上                           |
| 29 | 慢性心膜炎                      | 同上                           |
| 30 | アレイクメンゲル (Eisenmenger) 症候群 | 治療中である場合又は第2基準若しくは第3基準を満たす場合 |
| 31 | 右室低形成症                     | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合        |
| 32 | 右室二腔症                      | 第2基準を満たす場合                   |
| 33 | 左室右房交通症                    | 第1基準を満たす場合                   |
| 34 | 左心形成不全 (低形成) 症候群           | 治療中である場合又は第2基準若しくは第3基準を満たす場合 |

大血管の転位等形態の異常

|    |                              |  |
|----|------------------------------|--|
| 35 | 三心房心                         | 第1基準を満たす場合   |
| 36 | 心室中隔欠損症                      | 第1基準又は第2基準を満たす場合                                     |
| 37 | 心内臓床欠損症（一次口欠損症、共通房室弁口症）      | 不完全型心内臓床欠損症では第1基準を満たす場合、完全型心内臓床欠損症では第1基準又は第2基準を満たす場合 |
| 38 | 心不全を伴う動脈硬化（体動脈硬化）            | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合                                 |
| 39 | 心房中隔欠損症（二次口欠損症、静脈洞欠損症）       | 第2基準を満たす場合   |
| 40 | 総肺静脈還流異常症                    | 第1基準又は第2基準を満たす場合                                     |
| 41 | 体静脈異常還流症                     | 第1基準を満たす場合   |
| 42 | 単心室症                         | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合                                 |
| 43 | 単心房症                         | 第1基準を満たす場合   |
| 44 | 動脈管閉存症                       | 第1基準又は第2基準を満たす場合                                     |
| 45 | フアロー（Fallot）四徴症              | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合                                 |
| 46 | 部分的肺動脈還流異常症                  | 第1基準を満たす場合   |
| 47 | 心内臓心筋線維症                     | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合                                 |
| 48 | 心内臓線維弾性症                     | 同上   |
| 49 | 特発性拘束型（緊縮型）心筋症               | 同上   |
| 50 | 特発性肥大型心筋症                    | 同上   |
| 51 | ゾアサルバルゾア（Valsalva）洞動脈瘤又はその破裂 | 破裂例の場合又は破裂が予想される場合                                   |
| 52 | エプスタイン（Ebstein）奇形（病）         | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合                                |
| 53 | 完全大血管転位症                     | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合                                 |
| 54 | 血管輪症                         | 同上   |
| 55 | 三尖弁狭窄症                       | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合                                |

|    |                                |                       |
|----|--------------------------------|-----------------------|
| 56 | 三尖弁閉鎖症                         | 同上                    |
| 57 | 三尖弁閉鎖不全症                       | 同上                    |
| 58 | 修正大血管転位症                       | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合  |
| 59 | 重複大動脈弓症                        | 同上                    |
| 60 | 僧帽弁狭窄症                         | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合 |
| 61 | 僧帽弁閉鎖症                         | 同上                    |
| 62 | 僧帽弁閉鎖不全症                       | 同上基準を満たす場合            |
| 63 | 大動脈狭窄症                         | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合  |
| 64 | 大動脈縮窄症                         | 同上                    |
| 65 | 大動脈弁狭窄症                        | 同上                    |
| 66 | 大動脈弁閉鎖症                        | 同上                    |
| 67 | 大動脈弁閉鎖不全症                      | 同上                    |
| 68 | 大動脈瘤                           | 第2基準を満たす場合            |
| 69 | タウシツヒ・ビンゾ（Taussig-Bing）症<br>傍群 | 第1基準、第2基準又は第3基準を満たす場合 |
| 70 | 特発性肺動脈拡張症                      | 同上                    |
| 71 | 肺動脈狭窄症                         | 第1基準又は第2基準を満たす場合      |
| 72 | 肺動脈閉鎖症                         | 同上                    |
| 73 | 肺動脈弁狭窄症                        | 同上                    |
| 74 | 肺動脈弁閉鎖症                        | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合  |
| 75 | 肺動脈弁閉鎖不全症                      | 同上                    |
| 76 | 右鎖骨下動脈異常起始症                    | 第2基準を満たす場合            |
| 77 | 両大血管右室起始症                      | 同上                    |
| 78 | 慢性心不全（慢性肺性心を含む。）               | 第1基準を満たす場合            |
| 79 | 右胸心                            | 第3基準を満たす場合            |
| 80 | 左心症                            | 同上                    |
| 81 | 小児原発性肺高血圧症                     | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合  |

慢性心不全

その他の慢性心疾患

|    |          |                      |
|----|----------|----------------------|
| 82 | 心臓脱出症    | 第2基準を満たす場合           |
| 83 | 先天性心臓欠損症 | 治療中である場合又は第2基準を満たす場合 |
| 84 | 多脾症候群    | 同上                   |
| 85 | 無脾症候群    | 同上                   |

備考

本表中「第1基準」「第2基準」及び「第3基準」とは、それぞれ次に掲げる基準をいう。

第1基準 現在の治療で、「強心薬、利尿薬、抗不整脈薬、抗血小板薬、抗凝固薬、末梢血管拡張薬、βブロッカー」のいずれかが投与されていること。

第2基準 術後の残遺症（手術で完治できなかった障害）として次の(1)から(5)までのいずれかが認められること。又は、術後の合併症若しくは続発症として次の(2)から(11)までのいずれかが認められること。

- (1) 肺高血圧症（収縮期血圧40mmHg以上）
  - (2) 肺動脈狭窄（右室-肺動脈圧較差20mmHg以上）
  - (3) 2度以上の房室弁逆流
  - (4) 2度以上の半月弁逆流
  - (5) 圧較差20mmHg以上の大動脈狭窄
  - (6) 心室性期外収縮、上室性頻拍、心室性頻拍、心房細動、高度房室ブロック
  - (7) 左室駆出率あるいは体心室駆出率0.6以下
  - (8) 心胸郭比60%以上
  - (9) 圧較差20mmHg以上の大動脈再狭窄
  - (10) 2心室修復術実施
  - (11) フォンタン（Fontan）手術実施
- 第3基準 根治手術不能のためチアノーゼがあり、死に至る可能性を減らすための濃厚なケア、治療及び経過観察が必要な場合であること。

第五表 内分泌疾患

| 区分          | 番号 | 疾患名                    | 疾患の状態の程度  |
|-------------|----|------------------------|---|
| 異所性ホルモン産生腫瘍 | 1  | 異所性甲状腺刺激ホルモン（TSH）産生腫瘍  | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                                       |
|             | 2  | 異所性ゴナドトロピン産生腫瘍         | 同上  |
|             | 3  | 異所性コルチゾール産生腫瘍          | 同上  |
|             | 4  | 異所性成長ホルモン（GH）産生腫瘍      | 同上  |
|             | 5  | 異所性副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）症候群 | 同上  |
|             | 6  | 異所性プロラクチン（PRL）産生腫瘍     | 同上  |
| 下垂体又は視床下部障害 | 7  | 下垂体機能低下症               | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合。ただし、成長ホルモン治療を行う場合は、備考に定める基準を満たすものに限る。 |

|    |                          |   |
|----|--------------------------|---|
| 8  | 下垂体性巨人症                  | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                                       |
| 9  | クッシング（Cushing）病          | 同上  |
| 10 | 甲状腺刺激ホルモン（TSH）欠乏（欠損）症    | 同上  |
| 11 | 抗利尿ホルモン（ADH）分泌異常症（SIADH） | 同上  |
| 12 | ゴナドトロピン欠乏（欠損）症           | 同上  |
| 13 | シモンズ（Simmonds）病          | 同上  |
| 14 | 真性思春期早発症                 | 思春期の開始が、女児では8歳未満、男児では9歳未満で生じた場合                                       |
| 15 | 腎性尿崩症（抗利尿ホルモン不応症）        | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                                       |
| 16 | 成長ホルモン（GH）欠乏（欠損）症        | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合。ただし、成長ホルモン治療を行う場合は、備考に定める基準を満たすものに限る。 |
| 17 | 成長ホルモン分泌不全性低身長症          | 同上  |
| 18 | 中枢性思春期遅発症                | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                                       |
| 19 | 中枢性尿崩症（下垂体性（真性）尿崩症）      | 同上  |
| 20 | 低ゴナドトロピン性類癌官症            | 同上  |
| 21 | 副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）欠乏（欠損）症  | 同上  |
| 22 | プロラクチン（PRL）欠乏（欠損）症       | 同上  |
| 23 | 末端肥大症                    | 同上  |
| 24 | ラロン（Laron）型小人症           | 同上  |
| 25 | 異所性甲状腺                   | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                                       |
| 26 | クレチン症                    | 同上  |
| 27 | 甲状腺機能亢進症（バセドウ（Basedow）病） | 同上  |
| 28 | 甲状腺機能低下症                 | 同上  |

甲状腺ホルモンの異常

|    |  |                                 |             |
|----|--|---------------------------------|-------------|
| 29 | 甲状腺形成不全                                      | 同上                              |             |
| 30 | 甲状腺腫   | 同上                              |             |
| 31 | 腺腫様甲状腺腫                                      | 同上                              |             |
| 32 | 先天性甲状腺ホルモン不応症                                | 同上                              |             |
| 33 | 粘液水腫   | 同上                              |             |
| 34 | 橋本病  | 同上                              |             |
| 35 | 慢性甲状腺炎                                       | 同上                              |             |
| 36 | ヴァーナー・モリソン (Verner-Morrison, WDHA) 症候群       | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 | 消化管ホルモン異常   |
| 37 | ガストリン分泌異常                                    | 同上                              |             |
| 38 | グルカゴン分泌異常                                    | 同上                              |             |
| 39 | セロトニン分泌異常 (カルチノイド症候群)                        | 同上                              |             |
| 40 | ゾリンジャー・エリソン (Zollinger-Ellison) 症候群          | 同上                              |             |
| 41 | 特発性低血糖症                                      | 同上                              |             |
| 42 | ロイシン過敏性低血糖症                                  | 同上                              |             |
| 43 | VIP (Vasoactive-Intestinal-Polypeptide) 分泌異常 | 同上                              |             |
| 44 | カールマン (Kalmann) 症候群                          | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 | 性腺又は思春期の現異常 |
| 45 | 仮性思春期早発症                                     | 思春期の開始が、女兒では8歳未満、男児では9歳未満で生じた場合 |             |
| 46 | クラインフェルター (Klinefelter) 症候群                  | 治療で補充療法を行っている場合                 |             |
| 47 | 高エストロゲン症                                     | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 |             |
| 48 | 睾丸機能亢進症                                      | 同上                              |             |
| 49 | 睾丸機能低下症                                      | 同上                              |             |
| 50 | 睾丸形成不全                                       | 両側性であり、治療で補充療法を行っている場合          |             |
| 51 | 睾丸欠損症  | 同上                              |             |

|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
| 52 | 睾丸腫瘍  | 同上   |  |
| 53 | 睾丸女性化症  | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合  |  |
| 54 | 高ゴナドトロピン性類宦官症   | 同上   |  |
| 55 | 女性仮性半陰陽   | 同上   |  |
| 56 | 真性半陰陽   | 同上   |  |
| 57 | 性腺性思春期遅発症   | 同上   |  |
| 58 | 性早熟症  | 思春期の開始が、女兒では8歳未満、男児では9歳未満で生じた場合  |  |
| 59 | ターナー (Turner) 症候群                                       | 治療で補充療法を行っている場合<br>ただし、成長ホルモン治療を行う場合は、備考に定める基準を満たすものに限る。                 |  |
| 60 | 多嚢胞性卵巣症候群 (スライン・レーベンタール (Stein-Leventhal) 症候群)          | 治療で補充療法を行っている場合  |  |
| 61 | 男性仮性半陰陽   | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合  |  |
| 62 | テストステロン不足 (家族性男性思春期早発症、male-limited precocious puberty) | 同上   |  |
| 63 | ヌーナン (Noonan) 症候群                                       | 治療で補充療法を行っている場合  |  |
| 64 | プラダー・ウィリ (Prader-Willi) 症候群                             | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合<br>ただし、成長ホルモン治療を行う場合は、備考に定める基準を満たすものに限る。 |  |
| 65 | フレーリッツヒ (Frühlich) 症候群 (脂肪性器異常症)                        | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合  |  |
| 66 | 卵巣機能亢進症   | 同上   |  |
| 67 | 卵巣機能低下症   | 同上   |  |
| 68 | 卵巣形成不全  | 両側性であり、治療で補充療法を行っている場合   |  |
| 69 | 卵巣腫瘍  | 同上   |  |
| 70 | ローレンス・ムーンス・ベートル (Lawrence-Moon-Biedl) 症候群               | 治療で補充療法を行っている場合  |  |

|                     |           |   |                                 |
|---------------------|-----------|---|---------------------------------|
| 発症性内<br>分泌腺異<br>常   | 71        | XX男性  | 同上                              |
|                     | 72        | XY女性  | 同上                              |
|                     | 73        | ヴェルナー (Werner) 症候群  | 手術を実施し、かつ術後も治療が必要な場合            |
|                     | 74        | シップル (Sipple) 症候群   | 同上                              |
|                     | 75        | シュミット (Schmidt) 症候群   | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 |
|                     | 76        | 多発性内分泌腺腫症 (MENA, MEN)                                       | 手術を実施し、かつ術後も治療が必要な場合            |
|                     | 77        | 偽性偽性副甲状腺機能低下症   | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 |
|                     | 78        | 偽性特発性副甲状腺機能低下症  | 同上                              |
|                     | 79        | 偽性副甲状腺機能低下症   | 同上                              |
|                     | 80        | テタニー (副甲状腺性)  | 同上                              |
|                     | 81        | 特発性副甲状腺機能低下症  | 同上                              |
|                     | 82        | 副甲状腺機能亢進症   | 同上                              |
|                     | 83        | 副甲状腺機能低下・アジソン・モニリア (hypoparathyroidism-Addison-Monilia) 症候群 | 同上                              |
| 84                  | 副甲状腺機能低下症 | 同上  |                                 |
| 85                  | 副甲状腺形成不全  | 同上  |                                 |
| 副甲状腺<br>ホルモン<br>の異常 | 86        | アジソン (Addison) 病  | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 |
|                     | 87        | アルドステロン欠損症  | 同上                              |
|                     | 88        | クッシング (Cushing) 症候群   | 同上                              |
|                     | 89        | グルココルチコイド奏効性アルドステロ<br>ン症                                    | 同上                              |
|                     | 90        | 原発性アルドステロン症 (Conn) 症候群                                      | 同上                              |
|                     | 91        | 高アルドステロン症   | 同上                              |
|                     | 92        | コレステロール側鎖切断酵素欠損症 (先天性リポイド過形成、プラダー (Prader) 症候群)             | 同上                              |
|                     | 93        | 周期性ACTH症候群  | 同上                              |

|                   |                                     |   |    |
|-------------------|-------------------------------------|---|----|
| その他の<br>内分泌異<br>常 | 94                                  | 女性化副腎腫瘍   | 同上 |
|                   | 95                                  | 先天性副腎皮質過形成                                      | 同上 |
|                   | 96                                  | 男性化副腎腫瘍   | 同上 |
|                   | 97                                  | 特発性アルドステロン症                                     | 同上 |
|                   | 98                                  | 副腎形成不全  | 同上 |
|                   | 99                                  | 副腎性器症候群   | 同上 |
|                   | 100                                 | 副腎腺腫  | 同上 |
|                   | 101                                 | 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) 不応症                           | 同上 |
|                   | 102                                 | 3β水酸化ステロイド脱水素酵素欠損症 (ボンジョヴァンニ (Bongiovanni) 症候群) | 同上 |
|                   | 103                                 | 11β水酸化酵素欠損症                                     | 同上 |
|                   | 104                                 | 17α水酸化酵素欠損症                                     | 同上 |
|                   | 105                                 | 18水酸化酵素欠損症                                      | 同上 |
|                   | 106                                 | 18水酸化ステロイド脱水素酵素欠損症                              | 同上 |
| 107               | 21水酸化酵素欠損症                          | 同上  |    |
| 108               | 偽性低アルドステロン症                         | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                 |    |
| 109               | リドル (Liddle) 症候群                    | 同上  |    |
| 110               | 先天性全身性脂肪発育障害症候群 (リポ<br>シストロフィー)     | 治療で、補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合                 |    |
| 111               | マッキューン・オルブライト (McCune-Albright) 症候群 | 同上  |    |
| 112               | レニン分泌異常                             | 同上  |    |

備考

ヒト成長ホルモン治療を行う場合においては、この表に定める疾患の状態の程度であつて次の基準を満たすものを対象とする。

I 開始基準

新たに治療を開始する場合は、次の要件を満たすこと。

- 成長ホルモン分泌不全性低身長症 (2に該当するものを除く)、成長ホルモン (GH) 欠乏 (欠損) 症及び下垂体機能低下症の場合 次のいずれも満たすこと。ただし、乳幼児で成長ホルモン分泌不全が原因と考えられる症候性低血糖がある場合は、(3)を満たしていれば足りること。

- (1) 現在の身長が別表第一に掲げる値以下であること。
  - (2) IGF-1 (ソマトメジンC) 値が200ng/ml未満 (5歳未満の場合は、150ng/ml未満) であること。
  - (3) 成長ホルモン分泌刺激試験 (空腹下で行われた場合に限る。)の全ての結果 (試験前の測定値を含む。)で、成長ホルモンの最高値が10ng/ml (リコンビナントGHを標準品として) であること。
  - (4) 慢性腎不全による低身長の場合 現在の身長が別表第一に掲げる値以下であること。
- II 継続基準
- 1 成長ホルモン分泌不全性低身長症 (脳腫瘍等器質的な原因によるものを含む。)、成長ホルモン (GH) 欠乏 (欠損) 症、又は下垂体機能低下症による低身長の場合 初年度は、年間成長速度が6.0cm/年又は治療中1年間の成長速度と治療前1年間の成長速度との差が2.0cm/年以上であること。治療2年目以降は、年間成長速度が3.0cm/年以上であること。
  - 2 ターナー症候群、プラダー・ウイリ症候群、軟骨無形成症及び慢性腎不全による低身長の場合 初年度は、年間成長速度が4.0cm/年以上又は治療中1年間の成長速度と治療前1年間の成長速度との差が1.0cm/年以上であること。治療2年目以降は、年間成長速度が2.0cm/年以上であること。治療3年目以降は、年間成長速度が1.0cm/年以上であること。

III 終了基準  
男子156.4cm、女子145.4cmに達したことを。

第六表 膠原病

| 区分  | 番号 | 疾患名  | 疾患の状態の程度   |
|-----|----|--|--|
| 膠原病 | 1  | アレルギー性血管炎 (ウイナスラー・ファンコニ (Wissler-Fanconi) 症候群) | 治療で、非ステロイド系抗炎症薬、ステロイド薬、免疫調整薬、免疫抑制剤、抗凝固療法、理学療法、物理療法、生物学的製剤のうち一つ以上を用いている場合 |
|     | 2  | 冠動脈病変 (川崎病性冠動脈病変) (冠動脈瘤、冠動脈拡張症、冠動脈狭窄症)         | 一過性でないことが確実な冠動脈異常所見 (拡張、瘤形成、巨大瘤) 又は造影検査を確認し、継続的な治療が行われている場合              |
|     | 3  | シェーグレン (Sjögren) 症候群                           | 治療で、非ステロイド系抗炎症薬、ステロイド薬、免疫調整薬、免疫抑制剤、抗凝固療法、理学療法、物理療法、生物学的製剤のうち一つ以上を用いている場合 |
|     | 4  | 自己免疫性肝炎  | 同上   |

第七表 糖尿病

| 区分  | 番号 | 疾患名                                | 疾患の状態の程度 |
|-----|----|------------------------------------|----------|
|     | 5  | 自己免疫性膵炎                            | 同上       |
|     | 6  | 若年性関節リウマチ                          | 同上       |
| 糖尿病 | 7  | スチーブンス・ジョンソン (Stevens-Johnson) 症候群 | 同上       |
|     | 8  | スチル (Still) 病                      | 同上       |
|     | 9  | リウマチ性心疾患                           | 同上       |

第八表 先天性代謝異常

| 区分          | 番号 | 疾患名                                  | 疾患の状態の程度   |
|-------------|----|--------------------------------------|--|
| アミノ酸代謝異常    | 1  | イミノ酸異常症                              | 左欄の疾患名に該当する場合  |
|             | 2  | 家族性イミノグリシン尿症                         | 同上   |
|             | 3  | 高オキシドニチン血症—高アソモニア血症—ホモシトルリソ尿症候群      | 同上   |
|             | 4  | 白皮症                                  | 同上   |
|             | 5  | ヘルマンズキー・ブトラツク (Hermansky-Pudlak) 症候群 | 同上   |
|             | 6  | エーラーズ・ダンロス (Ehlers-Danlos) 症候群       | 左欄の疾患名に該当する場合  |
| 遺伝性結合組織代謝異常 | 7  | 骨形成不全症 (Osteogenesis imperfecta)     | 同上   |
|             | 8  | 軟骨無形成症 (軟骨異常症)                       | 左欄の疾患名に該当する場合、ただし、成長ホルモン治療を行う場合には、第五表備考に定める基準に該当するものに限る。 |
|             | 9  | アルファ1-アンチトリプシン欠乏症                    | 左欄の疾患名に該当する場合  |
| 血清蛋白異常      | 10 | トランスコバリンII欠損症                        | 同上   |
|             | 11 | 無アルブミン血症                             | 同上   |
|             | 12 | 無トランスフェリン症                           | 同上   |
|             | 13 | 無ハプトグロビン症                            | 同上   |

|         |    |  |   |
|---------|----|--|---|
| 脂質代謝異常  | 14 | アポ蛋白C-II欠損症  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|         | 15 | アルファリポ蛋白欠乏症(高比重リポ蛋白(HDL)欠乏症、タンジエール(Tanger)病)             | 同上  |
|         | 16 | ウォーホルマン(Wolman)病   | 同上  |
|         | 17 | 家族性高コレステロール血症  | 同上  |
|         | 18 | 家族性高リポ蛋白血症   | 同上  |
|         | 19 | 高超低比重リポ蛋白(VLDL)血症  | 同上  |
|         | 20 | 高低比重リポ蛋白(LDL)血症  | 同上  |
|         | 21 | 高トリグリセライド血症  | 同上  |
|         | 22 | 高プレベータリポ蛋白血症   | 同上  |
|         | 23 | 高ベータリポ蛋白血症   | 同上  |
|         | 24 | 先天性高脂質血症   | 同上  |
|         | 25 | 無(低)ベータリポ蛋白血症(バッセン・コーンツグアイク(Bassen-Kornzweig)症候群、有難赤血球症) | 同上  |
|         | 26 | レンヌム(Rensum)病  | 同上  |
| 先天性核異常  | 27 | 遺伝性若年性筋風   | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|         | 28 | 色素性乾皮症   | 同上  |
|         | 29 | 先天性高尿酸血症   | レツシユ・ナイハン(Nyhan)症候群の場合  |
| 先天性尿管異常 | 30 | シスチン蓄積症(リグナック(Lignac)症候群)                                | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|         | 31 | シスチン尿症   | 同上  |
|         | 32 | 腎性アミノ酸尿症   | 知的障害、運動障害、成長障害、けいれん、嘔吐、下痢、肝腫、特殊顔貌、眼科的異常、骨変形、尿路結石のうち一つ以上の症状がみられる場合 |
|         | 33 | ハルトナック(Hartnup)病   | 同上  |
|         | 34 | ファンコニ(Fanconi)症候群  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
| 糖質代謝異常  | 35 | 蔗糖・イリ麦芽糖吸収不全症  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|         | 36 | 先天性高乳酸血症   | 同上  |
|         | 37 | 乳糖吸収不全症  | 発症時期が乳児期の場合   |
|         | 38 | ぶどう糖・ガラクトース吸収不全症   | 左欄の疾患名に該当する場合   |

|             |    |  |   |
|-------------|----|--|---|
| ホルリン症       | 39 | 先天性ホルリン症   | 左欄の疾患名に該当する場合   |
| 無機質代謝異常     | 40 | 遺伝性ピタミンド抵抗性くる病(家族性低磷血症)  | 知的障害、運動障害、成長障害、けいれん、嘔吐、下痢、肝腫、特殊顔貌、眼科的異常、骨変形、尿路結石のうち一つ以上の症状がみられる場合 |
|             | 41 | ウイリソン(Wilson)病(セロロプラズミン欠乏症)  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|             | 42 | メンケス(Menkes)病(kinky-steeley)hair症候群)   | 同上  |
|             | 43 | グルタル酸尿症(I型、II型)  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|             | 44 | 先天性葉酸吸収不全症   | 同上  |
|             | 45 | メチルクロン酸血症  | 同上  |
| 有機酸代謝異常     | 46 | 遺伝性脈管浮腫  | 長期にわたり治療が必要となる場合  |
| その他の先天性代謝異常 | 47 | 先天性魚鱗鱗(水痘型先天性魚鱗鱗鱗鱗紅皮症、非水痘型先天性魚鱗鱗鱗紅皮症、遺伝性肺線魚鱗鱗、シエーグレン・ラーソン(Sjögren-Larsson)症候群) | 感染症を起こして抗生物質等を使用している場合  |
|             | 48 | 致死性表皮水疱症(ヘルリッツ(Herlitz)型)  | 左欄の疾患名に該当する場合   |
|             | 49 | ロウエ(Lowe)症候群(眼脳腎症候群)   | 同上  |
|             | 50 | 1から49までに掲げているもののほか、特定の欠損(括弧内異常)群を冠したすべての疾患                                     | 同上  |

備考 群素欠損(括弧内異常)による疾患は、この表の表記法によることを原則とするが、従来、固有の名称を用いたもの(糖尿病、フェニルケトン尿症など)については、引き続き同様の疾患名で取り扱って差し支えない。

第九表 血友病等血液・免疫疾患

| 区分      | 番号 | 疾患名                                      | 疾患の程度  |
|---------|----|--|--|
| 巨赤芽球形貧血 | 1  | 悪性貧血                                     | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、メチロキサド薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、脾臓透析血液透析のうち一つ以上を實施する場合 |
|         | 2  | イマーヌルンド・グレンスベック(Inners-lund-Gräsbeck)症候群 | 同上   |

|    |  |   |
|----|--|---|
| 3  | 巨赤芽球性貧血                                | 治療で補充療法を行っている場合   |
| 4  | 葉酸欠乏性貧血                                | 同上  |
| 5  | アンチトロンピンⅢ欠乏症                           | 左側の疾患名に該当する場合   |
| 6  | 高分子キニノゲン欠乏症                            | 同上  |
| 7  | 先天性血液凝固異常症                             | 同上  |
| 8  | 第Ⅰ因子(フィブリノゲン)欠乏症                       | 同上  |
| 9  | 第Ⅱ因子(プロトロンピン)欠乏症                       | 同上  |
| 10 | 第Ⅴ因子(不安定因子)欠乏症                         | 同上  |
| 11 | 第Ⅶ因子(安定因子)欠乏症                          | 同上  |
| 12 | 第Ⅷ因子欠乏症(血友病A)                          | 同上  |
| 13 | 第Ⅸ因子欠乏症(血友病B)                          | 同上  |
| 14 | 第Ⅹ因子(スチュアート・プラウアー(Stuart-Prower)因子)欠乏症 | 同上  |
| 15 | 第Ⅺ因子欠乏症                                | 同上  |
| 16 | 第Ⅻ因子(ヘイゲマン(Hageman)因子)欠乏症              | 同上  |
| 17 | 第Ⅻ因子(コイブリン安定化因子)欠乏症                    | 同上  |
| 18 | フォン・ヴィレブラント(von Willebrand)病           | 同上  |
| 19 | フィカリクレイン欠乏症                            | 同上  |
| 20 | C蛋白(protein C)欠乏症                      | 検査でC蛋白活性が50%未満の場合   |
| 21 | S蛋白(protein S)欠乏症                      | 検査でS蛋白活性が50%未満の場合   |
| 22 | 巨大血管腫(カサバツハ・メリット(Kasabach-Merritt)症候群) | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬のアロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 23 | 血小板機能異常症(血小板異常症)                       | 同上  |
| 24 | 血小板血症                                  | 血栓症の既往がある場合又は治療で抗凝固療法を行っている場合   |

|    |                                |   |
|----|--------------------------------|---|
| 25 | 血小板無力症                         | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬のアロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 26 | 血小板無力症候群                       | 同上  |
| 27 | 血栓性血小板減少性紫斑病                   | 同上  |
| 28 | 周期性血小板減少症                      | 同上  |
| 29 | 先天性無巨核球性血小板減少症(トロンボサイトシス欠損症)   | 同上  |
| 30 | 貯蔵欠如症(storage pool病)           | 同上  |
| 31 | 脾機能亢進性血小板減少症                   | 同上  |
| 32 | 脾形成不全性血小板増加症                   | 同上  |
| 33 | ベルナール・スリエ(Bernard-Soulier)症候群  | 同上  |
| 34 | 放出機構異常症('Aspirin-like' defect) | 同上  |
| 35 | 本態性アトロンピア(トロンピン欠乏症)            | 同上  |
| 36 | 免疫学的血小板減少症                     | 同上  |
| 37 | 寒冷凝集素症                         | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬のアロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 38 | 自己免疫性溶血性貧血                     | 同上  |
| 39 | 新生児溶血性貧血(胎児赤芽球症)               | 同上  |
| 40 | 脾機能亢進性溶血性貧血                    | 同上  |
| 41 | 微小血管障害性溶血性貧血                   | 血栓症の既往がある場合又は治療で抗凝固療法を行っている場合   |
| 42 | 発作性寒冷性溶血性貧血症                   | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬のアロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 43 | 発作性夜間血色素尿症                     | 同上  |
| 44 | 慢性寒冷赤血球凝集素症                    | 同上  |



|    |  |   |
|----|--|---|
| 82 | エリトロポエチン分泌異常                                 | 治療で、補充療法を行っている場合  |
| 83 | 原発性鉄芽球性貧血                                    | 治療で、継続的に補充療法若しくは除鉄剤の投与を行っている場合又は造血幹細胞移植を実施する場合  |
| 84 | ピタミンB6反応性(ピリドキシン欠乏性)貧血                       | 同上  |
| 85 | ピリドキシン反応性貧血                                  | 同上  |
| 86 | アルダー(Alder)異常(症候群)                           | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 87 | 遺伝性好中球減少症(家族性慢性好中球減少症)                       | 治療で、G-CSF療法若しくは造血幹細胞移植を実施する場合又は検査で好中球数1500/ $\mu$ l以下の場合  |
| 88 | 好酸球増加症                                       | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬用子ロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 89 | 周期性好中球減少症                                    | 同上  |
| 90 | 怠惰白血球症候群                                     | 同上  |
| 91 | 不能白血球症                                       | 同上  |
| 92 | ペルダール・フエット(Pelger-Huet)異常(症候群)               | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 93 | 慢性再生不良性好中球減少症(シュペーベト・ダマシエク(Spät-Damshel)症候群) | 治療でG-CSF療法若しくは造血幹細胞移植を実施する場合又は検査で好中球数1500/ $\mu$ l以下の状態である場合                                    |
| 94 | 慢性本態性好中球減少症                                  | 同上  |
| 95 | ミエロペルオキシダーゼ欠損症                               | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 96 | メイ・ヘグリン(May-Hegglin)異常(症候群)                  | 同上  |
| 97 | 異ガングログロブリン血症                                 | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 98 | ウイスクott・アルドリッチ(Wiskott-Aldrich)症候群           | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合                  |

|     |                                      |   |
|-----|--------------------------------------|---|
| 99  | 胸腺形成不全                               | 造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合   |
| 100 | グッド(Good)症候群                         | 同上  |
| 101 | 高グロブリン血症性紫斑病                         | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 102 | 後天性免疫不全症候群(AIDS、HIV感染症)              | 左欄の疾患名に該当する場合   |
| 103 | シエデアク・東(Cheidiak-Higashi)異常(症候群)     | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬用子ロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 104 | 重症複合免疫不全症(リンパ球減少性無ガンマグロブリン血症)        | 同上  |
| 105 | スミス型無ガンマグロブリン血症                      | 同上  |
| 106 | 選択的免疫グロブリン欠損症                        | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 107 | 先天性細胞性免疫不全症                          | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬用子ロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 108 | 低ガンマグロブリン血症                          | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 109 | ダイジョージ(DiGeorge)症候群                  | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬用子ロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 110 | 特定抗体産生不全症(specific unresponsiveness) | 入院加療を要する感染症にかかった場合  |
| 111 | ネゼロフ(Nezelof)症候群                     | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬用子ロイド薬の投与、免疫抑制剤の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 112 | パリアブル・イムノデフアイゼンシー (variable immunodeficiency)             | 同上   |
| 113 | 複合型免疫不全症  | 同上   |
| 114 | ブルトン (Bruton) 型無ガンマグロブリン血症                                | 同上   |
| 115 | 本態性高ガンマグロブリン血症  | 入院加療を要する感染症にかかった場合   |
| 116 | 末梢 (毛細) 血管拡張性運動失調症 (ルイ・バリエ (Louis-Bar) 症候群)               | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬学的投与、抗腫瘍薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 117 | 慢性活動性EBウイルス感染症  | 同上   |
| 118 | 慢性肉芽腫症  | 同上   |
| 119 | 慢性GVHD (Graft Versus Host disease, 移植片対宿主病)               | 同上   |
| 120 | 無ガンマグロブリン血症   | 同上   |
| 121 | 良性単クローン性免疫グロブリン異常症 (良性 (本態性) M-蛋白血症)                      | 入院加療を要する感染症にかかった場合   |
| 122 | IgA欠損症  | 同上   |
| 123 | IgM欠損症  | 同上   |
| 124 | 遺伝性出血性末梢血管拡張症 (ラングスター・オスラー・ウェーバー (Rendu-Osler-Weber) 症候群) | 治療で、補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、薬学的投与、抗腫瘍薬の投与、免疫抑制剤の投与、造血幹細胞移植、腹膜透析、血液透析のうち一つ以上を実施する場合 |
| 125 | 骨髄嚢腫症 (骨髄硬化症、本態性骨髄様化生)                                    | 同上   |
| 126 | 真性多血症   | 同上   |
| 127 | 赤芽球病  | 同上   |
| 128 | 先天性赤血球産生異常性貧血   | 治療で、補充療法若しくは除鉄剤の投与を行っている場合又は造血幹細胞移植を実施する場合   |

第十表 神経・筋疾患

| 区分     | 番号 | 疾患名                      | 疾患の状態の程度                                       |
|--------|----|--------------------------|--|
| 神経・筋疾患 | 1  | ウェスト (West) 症候群 (点頭てんかん) | 運動障害、精神遅滞、意識障害、自閉傾向、異常行動 (自傷行動、多動)、けいれん発作、皮膚所見 |

|    |                                  |   |  |
|----|----------------------------------|---|--|
| 2  | 結節性硬化症                           | 同上  | 呼吸異常、体温調節異常、温痛覚低下、骨折・脱臼のうち一つ以上の症状が続く場合 |
| 3  | 重症乳児ミオクロニーてんかん                   | 同上  |  |
| 4  | 小児亜急性硬化性全脳炎 (SSPE)               | 同上  |  |
| 5  | 先天性ミオパチー                         | 治療で、強心薬の投与、利尿薬の投与、経管栄養、中心静脈栄養管留置、人工呼吸管理、一つ以上を継続的にしている場合                               |  |
| 6  | 福山型先天性筋ジストロフィー (先天性遺伝性筋ジストロフィー)  | 運動障害、精神遅滞、意識障害、自閉傾向、異常行動 (自傷行動、多動)、けいれん発作、皮膚所見、呼吸異常、体温調節異常、温痛覚低下、骨折・脱臼のうち一つ以上の症状が続く場合 |  |
| 7  | ミトコンドリア脳筋症 (ミトコンドリア・ミオパチー)       | 同上  |  |
| 8  | ミニコア病                            | 治療で、強心薬の投与、利尿薬の投与、経管栄養、中心静脈栄養管留置、人工呼吸管理、一つ以上を継続的にしている場合                               |  |
| 9  | 無精無汗症                            | 運動障害、精神遅滞、意識障害、自閉傾向、異常行動 (自傷行動、多動)、けいれん発作、皮膚所見、呼吸異常、体温調節異常、温痛覚低下、骨折・脱臼のうち一つ以上の症状が続く場合 |  |
| 10 | リー (Leigh) 脳症                    | 同上  |  |
| 11 | レット (Rett) 症候群                   | 同上  |  |
| 12 | レンノックス・ガストウ (Lennox-Gastaut) 症候群 | 同上  |  |

第十一表 慢性消化器疾患

| 区分      | 番号 | 疾患名  | 疾患の状態の程度   |
|---------|----|--|--|
| 肝・胆道系疾患 | 1  | アラジール (Alagille) 症候群 (動脈肝異形成arterio hepatic dysplasia) | 肝腫、黄疸、白色便、吐血のうち一つ以上の症状が認められる場合                                       |
|         | 2  | 胆硬変  | 肝腫、黄疸、白色便、下痢、吐血、腹強膨満、易疲労性、体重増加不良のうち一つ以上の症状が認められる場合。ただし、原発性胆汁性胆硬変は除く。 |





別表第四 軟骨無形成症用身長基準 (標準身長の一3.0SD値) 上段男子、下段女子 (単位: cm)

| 年齢  | 各年齢に達してからの月数 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-----|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|     | 0月           | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   |
| 0歳  | 42.5         | 47.0  | 51.2  | 54.6  | 57.3  | 59.2  | 60.8  | 62.0  | 63.2  | 64.3  | 65.3  | 66.3  |
| 1歳  | 42.2         | 46.3  | 50.2  | 53.4  | 56.0  | 57.8  | 59.4  | 60.6  | 61.8  | 62.8  | 63.9  | 64.9  |
| 2歳  | 67.2         | 68.1  | 69.0  | 69.8  | 70.6  | 71.4  | 72.1  | 72.9  | 73.7  | 74.4  | 75.1  | 75.7  |
| 3歳  | 65.9         | 66.8  | 67.7  | 68.7  | 69.5  | 70.3  | 71.2  | 72.0  | 72.8  | 73.5  | 74.2  | 74.8  |
| 4歳  | 76.4         | 77.0  | 77.6  | 78.2  | 78.8  | 79.3  | 79.9  | 80.4  | 80.9  | 81.4  | 82.0  | 82.5  |
| 5歳  | 75.5         | 76.1  | 76.7  | 77.3  | 77.8  | 78.4  | 78.9  | 79.4  | 80.0  | 80.5  | 81.1  | 81.6  |
| 6歳  | 83.0         | 83.5  | 84.0  | 84.5  | 84.9  | 85.4  | 85.9  | 86.3  | 86.8  | 87.3  | 87.7  | 88.1  |
| 7歳  | 82.1         | 82.6  | 83.2  | 83.7  | 84.2  | 84.7  | 85.2  | 85.7  | 86.2  | 86.7  | 87.1  | 87.6  |
| 8歳  | 83.6         | 89.0  | 89.4  | 89.9  | 90.3  | 90.7  | 91.2  | 91.6  | 92.0  | 92.5  | 92.9  | 93.3  |
| 9歳  | 88.1         | 88.5  | 89.0  | 89.5  | 89.9  | 90.4  | 90.8  | 91.3  | 91.7  | 92.1  | 92.6  | 93.1  |
| 10歳 | 93.7         | 94.2  | 94.6  | 95.0  | 95.5  | 95.9  | 96.3  | 96.8  | 97.2  | 97.7  | 98.1  | 98.6  |
| 11歳 | 93.5         | 94.0  | 94.4  | 94.9  | 95.3  | 95.7  | 96.2  | 96.6  | 97.1  | 97.5  | 97.9  | 98.4  |
| 12歳 | 99.0         | 99.5  | 99.9  | 100.4 | 100.9 | 101.3 | 101.8 | 102.3 | 102.7 | 103.1 | 103.6 | 104.0 |
| 13歳 | 98.8         | 99.2  | 99.6  | 100.1 | 100.5 | 100.9 | 101.3 | 101.8 | 102.2 | 102.6 | 102.9 | 103.3 |
| 14歳 | 104.5        | 104.9 | 105.3 | 105.8 | 106.2 | 106.6 | 107.1 | 107.5 | 107.9 | 108.2 | 108.6 | 109.0 |
| 15歳 | 103.8        | 104.2 | 104.6 | 105.0 | 105.5 | 105.9 | 106.3 | 106.7 | 107.1 | 107.4 | 107.8 | 108.2 |
| 16歳 | 109.4        | 109.8 | 110.2 | 110.6 | 111.0 | 111.4 | 111.8 | 112.2 | 112.5 | 112.9 | 113.3 | 113.7 |
| 17歳 | 108.6        | 108.9 | 109.3 | 109.7 | 110.0 | 110.4 | 110.8 | 111.1 | 111.5 | 111.8 | 112.2 | 112.5 |
| 18歳 | 114.1        | 114.5 | 114.8 | 115.2 | 115.6 | 116.0 | 116.4 | 116.7 | 117.1 | 117.5 | 117.8 | 118.2 |
| 19歳 | 112.9        | 113.2 | 113.6 | 113.9 | 114.3 | 114.6 | 115.0 | 115.4 | 115.8 | 116.2 | 116.6 | 117.0 |
| 20歳 | 118.5        | 118.9 | 119.3 | 119.6 | 120.0 | 120.3 | 120.7 | 121.0 | 121.2 | 121.5 | 121.8 | 122.0 |
| 21歳 | 117.5        | 117.9 | 118.3 | 118.7 | 119.1 | 119.5 | 119.9 | 120.5 | 121.1 | 121.7 | 122.3 | 122.9 |
| 22歳 | 122.3        | 122.6 | 122.8 | 123.1 | 123.4 | 123.6 | 123.9 | 124.3 | 124.7 | 125.1 | 125.5 | 125.9 |
| 23歳 | 123.5        | 124.1 | 124.7 | 125.3 | 125.9 | 126.5 | 127.1 | 127.7 | 128.3 | 128.9 | 129.5 | 130.1 |
| 24歳 | 126.3        | 126.7 | 127.1 | 127.5 | 127.9 | 128.3 | 128.7 | 129.4 | 130.1 | 130.8 | 131.5 | 132.1 |
| 25歳 | 130.7        | 131.3 | 131.9 | 132.5 | 133.1 | 133.7 | 134.3 | 134.7 | 135.1 | 135.5 | 135.8 | 136.2 |
| 26歳 | 132.8        | 133.5 | 134.2 | 134.9 | 135.6 | 136.2 | 136.9 | 137.7 | 138.4 | 139.2 | 140.0 | 140.7 |
| 27歳 | 136.6        | 137.0 | 137.4 | 137.8 | 138.1 | 138.5 | 138.9 | 139.1 | 139.2 | 139.4 | 139.6 | 139.7 |
| 28歳 | 141.5        | 142.2 | 143.0 | 143.8 | 144.5 | 145.3 | 146.0 | 146.4 | 146.8 | 147.3 | 147.7 | 148.1 |
| 29歳 | 139.9        | 140.1 | 140.2 | 140.4 | 140.6 | 140.7 | 140.9 | 141.0 | 141.1 | 141.1 | 141.2 | 141.2 |
| 30歳 | 148.5        | 148.9 | 149.3 | 149.7 | 150.1 | 150.5 | 150.9 | 151.1 | 151.2 | 151.4 | 151.5 | 151.7 |
| 31歳 | 141.3        | 141.3 | 141.4 | 141.5 | 141.5 | 141.6 | 141.6 | 141.7 | 141.7 | 141.7 | 141.8 | 141.8 |
| 32歳 | 151.8        | 152.0 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 | 152.1 |
| 33歳 | 141.8        | 141.9 | 141.9 | 141.9 | 141.9 | 142.0 | 142.0 | 142.0 | 142.1 | 142.1 | 142.1 | 142.2 |
| 34歳 | 153.0        | 153.1 | 153.1 | 153.2 | 153.2 | 153.3 | 153.3 | 153.3 | 153.3 | 153.3 | 153.3 | 153.3 |
| 35歳 | 142.2        | 142.2 | 142.2 | 142.3 | 142.3 | 142.3 | 142.4 | 142.4 | 142.4 | 142.4 | 142.4 | 142.4 |

○厚生労働省告示第二十四号  
 薬事法(昭和三十五年法律第四十五号)第四  
 十九条第一項の規定に基づき、薬事法第四十九  
 条第一項の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医  
 薬品を次のように定め、薬事法及び採血及び供血  
 あつせん業取締法の一部を改正する法律(平成十  
 四年法律第九十六号)第二十条の規定の施行の日(平  
 成十七年四月一日)から適用し、昭和三十六年厚  
 生労働省告示第十七号(薬事法第四十九条第一項  
 の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品)  
 は、平成十七年三月三十一日限り廃止する。  
 平成十七年二月十日  
 厚生労働大臣 尾辻 秀久

- 次に掲げる医薬品(専ら疾病の診断に使用され  
 ることが目的とされている医薬品であつて、人の  
 身体に直接使用されることのないものを除く。)  
 一 放射性医薬品(放射性医薬品の製造及び取扱  
 規則(昭和三十六年厚生省令第四号)第一条第  
 一号に規定する放射性医薬品をいう。)  
 二 麻薬(麻薬及び向精神薬取締法(昭和二十八  
 年法律第十四号)第二条第一号に規定する麻薬  
 をいう。)  
 三 向精神薬(麻薬及び向精神薬取締法(昭和二  
 十八年法律第十四号)第二条第六号に規定する  
 向精神薬をいう。)  
 四 覚せい剤(覚せい剤取締法(昭和二十六年法  
 律第二十二号)第二条第一項に規定する覚  
 せい剤原料をいう。)  
 五 覚せい剤原料(覚せい剤取締法(昭和二十六  
 年法律第二十二号)第二条第五項に規定す  
 る覚せい剤原料をいう。)  
 六 特定生物由来製品(薬事法(昭和三十五年法  
 律第四十五号)第二条第十項に規定する特定  
 生物由来製品をいう。)  
 七 注射剤(前各号に掲げるものを除く。)  
 八 次に掲げるものの誘導体、それらの水和  
 物及びこれらの塩類を有効成分として含有する  
 製剤(前各号に掲げるもの及び殺菌剤を除く。)  
 ただし、二以上の有効成分を含有する製剤に  
 あつては、次に掲げるものに限る。

- (9) アシクロビル。ただし、外用剤を除く。  
 (8) アジスロマイシン  
 (7) アジマリン  
 (6) 亜硝酸アミル  
 (5) アステミゾール  
 (4) アセチルソラミド  
 (3) アセチルスピラマイシン  
 (2) アセチルフエネトライド  
 (1) アセチロマーチ  
 (10) アセトハキサミド  
 (9) アセトローレル  
 (8) アセメタシン  
 (7) アゼルニジピン  
 (6) アソセミド  
 (5) アタザナビル  
 (4) アテノロール  
 (3) アテホビスタボキシル  
 (2) アトルバスタチン  
 (1) アナストロゾール  
 (10) アニラセタム  
 (9) アバカビル  
 (8) アブラクロニジン  
 (7) アフロクサン  
 (6) アマンタジン  
 (5) アミノダロン  
 (4) アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン  
 (3) アミトリアプテン  
 (2) アミノ安息香酸エチル。ただし、歯科用製  
 剤に限る。  
 (1) アミノ安息香酸エチル・塩酸テトラカイ  
 ・塩酸ジブカイン・ホモスルフアミン  
 (10) アミノ安息香酸エチル・パラブチルアミノ  
 安息香酸ジエチルアミノエチル  
 (9) アミノ酢酸チアンフェニコール  
 (8) アミノフェリン  
 (7) アムホテリシン  
 (6) アムロジピン  
 (5) アモキシシリン  
 (4) アモキシシリン  
 (3) アモキシシリン・クラファン酸カリウム  
 (2) アモスラロール  
 (1) アラセピリン  
 (10) アラニジピン  
 (9) アリルエストレノール  
 (8) アルギン酸ナトリウム。ただし、内用剤を  
 除く。  
 (7) アルファ・アルファージフェニルピペリジ  
 ンメタンオール